

『狭山茶の付加価値向上・活性化に関する調査・研究』

1. 調査・研究事業の背景・目的

狭山茶は埼玉県の特産品であり、茶産地としての歴史があるため、「色は静岡、香りは宇治、味は狭山とどめをさす」と謳われ、静岡県や宇治茶とともに日本三大茶とされています。

しかし、現在の主要な産地は、静岡県、鹿児島県、三重県、京都府、福岡県であり、埼玉県は第8位に位置しています。

国内では急須でお茶を淹れる緑茶（リーフ茶）の消費量が減少しており、その普及拡大や付加価値向上が課題となっています。特に狭山茶は、「自園自製自販（自分の茶園で収穫し、自分で製茶して販売する）」という独特な6次産業化形態の個人経営のお茶屋が多く存在し、各お茶屋が独自の製茶にこだわっています。そのため、狭山茶の魅力や情報が伝わりにくいとされています。

そこで、埼玉県の特産品である狭山茶をテーマに、お茶屋の魅力向上やファンづくり、農商工連携・6次産業化など、中小企業診断士が求められる実践的な知見やノウハウを向上させ、地域活性化における診断士の役割を広げることを目的に、調査・研究事業を実施しました。

2. 実施内容

(1) 研究会内にチームを編成

当研究会の会員の中から希望者を募り、13名で調査・研究チームを編成しました。当研究会では通算3回目の調査・研究事業となることから、今回はこれまで調査・研究事業に参加したことのない会員や新規会員を中心にチームメンバーを選定しました。

(2) 調査・分析手法

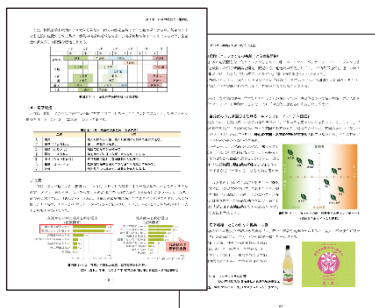
調査手法については、文献やインターネット等を通じてお茶の特性と市場動向を調査するとともに、狭山茶の製造・販売業者や自治体などを訪問してヒアリング調査を行い、現状と課題を分析しました。

(3) 本調査研究事業における提言

国内他地域のお茶のブランディングに関する取組を踏まえた上で、提言や施策の前提となる知見・情報・論点を述べた上で、最終的に狭山茶の価値向上に向けた提言や施策をまとめました。

(4) 報告書のとりまとめ

調査結果、現状分析結果、論拠となる情報・知見や論点、提言などを整理し、最終的に、「狭山茶の付加価値向上・活性化に関する調査・研究報告書」としてとりまとめました。



調査・研究報告書

3. 報告会としてのフォーラムの開催

報告書完成後、調査・研究結果の報告会を開催しました。

- 事業名：「狭山茶価値創造フォーラム」
- 開催日時：令和6年2月15日（木）14:00～16:30
- 会場：埼玉県中小企業診断協会 3階会議室
- 内容：調査・研究報告（第一部）意見交換会（第二部）

当日は、調査にご協力いただいた茶園の方々をお招きするとともに、当協会会員のほか、茶業関係者、行政機関、県議会議員、他県診断協会会員等にご参加いただきました（計25名）。

調査・研究メンバーによる調査・研究報告の発表の後、ゲストの埼玉県茶業研究所所長の渡辺寛文氏による講演、参加者全員での意見交換などを実施し、会は盛況に終わりました。



フォーラムのチラシ

また、会の前後の時間や休憩時間中に茶園の方々へ試飲のお茶を振舞っていただく企画も大変好評でした。



意見交換会の様子



会場試飲の様子



4. まとめ

私たち中小企業診断士は、中小企業の経営分析を経営戦略やマーケティング、業務プロセス、人材・組織の観点から実施することがメイン業務でしたが、今後はその知見・ノウハウを地域活性化に活かす必要があります。

本調査・研究事業のテーマである「狭山茶」のように、人口減少やお茶離れにより衰退する市場は、現在数多く存在しています（例えば日本酒、漬物、お米など）。成熟・衰退市場において商品の付加価値向上を図り、事業者の収益向上や地域の活性化につなげる取組は、診断士にとって大変意義深いものであり、研究会内で今回の調査・研究事業のテーマについて議論した際、「狭山茶の付加価値向上・活性化」は、取り組むにふさわしいとの意見で選定されました。本研究会では、今後も引き続き地域課題に向き合い、少しでも地域活性化に貢献できるよう活動していきたいと考えます。